

平成三十二年

社会福祉法人 東京光の家 事業報告

はじめに く 総括的報告

又、暑い季節を迎えました。日頃は私ども東京光の家がおこなっている視覚障害者福祉事業全般に対し、格別なるご高配のもとご指導・ご鞭撻ご支援を賜り心から厚く御礼申し上げます。皆様方のご援助のお蔭で、事業全体も滞り無く取り運ばれ、

微力ながらも社会的責任を果すことができました。又、各事業施設で生活する利用者たちも元気で明るく、一日一日を過ごすことが出来、諸訓練に励みながら、自立に向けて頑張っているところです。以下平成三十二年の事業状況のご報告をさせていただきます。

【社会福祉法人東京光の家 総括貸借対照表】

平成23年3月31日現在 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	383,499	流動負債	58,318
現金預金	269,186	未払金	33,366
未収金	90,519	預り金	8,167
未立替金	616	経理区分間借入金	10,729
前払金	1,563	会計単位間借入金	6,053
経理区分間貸付金	10,729		
会計単位間貸付金	6,053		
商品・製成品	3,295		
原材料	1,533	固定負債	114,053
固定資産	2,253,380	設備資金借入金	49,950
基本財産	1,114,734	退職給与引当金	64,103
土地	6,630	負債の部合計	172,372
建物	1,111,104	純資産の部	
その他の固定資産	1,138,645	基本金	418,832
機械及び装置	13,924	国庫補助金等特別積立金	462,385
車輻運搬器具	178	その他の積立金	1,036,977
器具及び備品	22,190	移行時特別積立金	104,652
長期貸付金	300	人件費積立金	304,500
措置施設繰越特定預金	287,000	建設積立金	98,500
移行時特別積立預金	104,652	施設整備等積立金	371,360
施設整備積立預金	234,360	その他の積立金	152,500
人件費積立預金	154,500	工費変動積立金	2,465
建設積立特定預金	98,500	設備整備等積立金	3,000
その他の積立特定預金	152,500	次期繰越活動収支差額	546,312
工費変動積立預金	2,465	次期繰越活動収支差額	546,312
設備整備等積立預金	3,000	(うち当期活動収支差額)	245,160
その他の固定資産	65,075	純資産の部合計	2,464,508
資産の部合計	2,636,880	負債及び純資産の部合計	2,636,880

脚注：減価償却費の累計額 1,027,844千円
注記：固定資産の減価償却の方法…定額法

【社会福祉法人 東京光の家 総括資金収支計算書】

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
就労支援事業収入計	48,552
就労支援事業支出計	46,571
就労支援事業活動資金収支差額	1,981
経常活動及び福祉事業収入計	1,175,374
自立支援費等収入	558,259
利用料収入	1,944
措置費収入	195,644
私的契約利用料収入	52,614
補助事業等収入	12,171
経常経費補助金収入	259,947
寄付金収入(※賛助会寄附金含む)	54,859
雑収入	30,645
借入金利補助金収入	846
受取利息配当金収入	1,492
会計単位間繰入金収入	3,950
経理区分間繰入金収入	3,000
経常活動及び福祉事業支出計	970,095
人件費支出	703,251
事務費支出	125,971
事業費支出	133,076
借入金利支出	846
経理区分間繰入金支出	3,000
会計単位間繰入金支出	3,950
経常活動福祉事業活動資金収支差額	205,279
施設整備等収入計(※賛助会寄附金含む)	63,554
施設整備等支出計	3,516
施設整備等資金収支差額	60,037
財務収入計	12,355
財務支出計	263,990
財務活動資金収支差額	△251,634
当期資金収支差額合計	15,663
当期末支払資金残高	320,351

【社会福祉法人 東京光の家 総括事業活動収支計算書】

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
就労支援事業活動収入計	48,552
就労支援事業活動支出計	47,037
就労支援事業活動収支差額	1,515
事業活動及び福祉事業活動収入計	1,185,601
自立支援費等収入	558,259
利用料収入	1,944
措置費収入	195,644
私的契約利用料収入	52,614
補助事業等収入	12,171
経常経費補助金収入	259,947
寄付金収入(※賛助会寄附金含む)	54,859
雑収入	27,703
国庫補助金等特別積立金取崩額(事業)	22,456
事業活動及び福祉事業活動支出計	1,004,327
人件費支出	703,251
事務費支出	115,558
事業費支出	133,076
減価償却費	44,970
引当金繰入	7,471
事業活動及び福祉事業活動収支差額	181,273
事業活動外収入計	9,288
事業活動外支出計	7,796
事業活動外収支差額	1,492
経常収支差額	184,280
特別収入計(※賛助会寄附金含む)	63,554
特別支出計	2,674
特別収支差額	60,879
当期活動収支差額	245,160
前期繰越活動収支差額	541,595
当期末繰越活動収支差額	786,756
次期繰越活動収支差額	546,312

※賛助会寄附金額 78,291千円

【光の家新生園 資金収支計算書】

科 目		金 額
経常収入計		351,337
自立支援費等収入		296,883
補助事業等収入		6,480
経常経費補助金収入		41,496
寄付金収入		431
雑収入		5,797
受取利息配当金収入		247
経常支出計		292,286
人件費支出		193,402
事務費支出		62,253
事業費支出		34,130
経理区分間繰入金支出		2,500
経常活動資金収支差額		59,050
施設整備等収入計		35,268
施設整備等支出計		271
施設整備等資金収支差額		34,996
財務収入計		12,055
財務支出計		102,500
財務活動資金収支差額		△ 90,444
当期資金収支差額合計		3,603
当期末支払資金残高		79,091

【光の家栄光園 資金収支計算書】

科 目		金 額
就労支援事業収入計		48,552
就労支援事業支出計		46,571
就労支援事業活動資金収支差額		1,981
福祉事業収入計		327,694
自立支援費等収入		261,375
補助事業等収入		5,658
経常経費補助金収入		51,915
寄付金収入		275
雑収入		5,703
受取利息配当金収入		316
会計単位間繰入金収入		2,450
福祉事業支出計		269,356
人件費支出		208,876
事務費支出		19,142
事業費支出		39,837
会計単位間繰入金支出		1,500
福祉事業活動資金収支差額		58,338
施設整備等収入計		0
施設整備等支出計		2,996
施設整備等資金収支差額		△ 2,996
財務収入計		0
財務支出計		52,000
財務活動資金収支差額		△ 52,000
当期資金収支差額合計		5,323
当期末支払資金残高		95,195

【公益事業特別会計 資金収支計算書】

視覚障害者移動介護従事者養成研修事業

科 目		金 額
経常収入計		603
雑収入		603
経常支出計		257
事務費支出		257
経常活動資金収支差額		345
当期資金収支差額合計		345
当期末支払資金残高		1,914

各資金収支計算書会計期間：
 (自)平成22年4月1日(至)平成23年3月31日
 単位：千円(千円未満切捨)

【法人本部 資金収支計算書】

科 目		金 額
経常収入計		69,243
補助事業等収入		32
寄付金収入		53,965
雑収入		10,397
受取利息配当金収入		349
会計単位間繰入金収入		1,500
経理区分間繰入金収入		3,000
経常支出計		13,426
事務費支出		10,976
会計単位間繰入金支出		2,450
経常活動資金収支差額		55,817
施設整備等収入計		28,286
施設整備等支出計		0
施設整備等資金収支差額		28,286
財務収入計		300
財務支出計		83,000
財務活動資金収支差額		△ 82,700
当期資金収支差額合計		1,403
当期末支払資金残高		60,776

【光の家神愛園 資金収支計算書】

科 目		金 額
経常収入計		416,859
指圖書費収入		195,644
私的契約利用料収入		52,614
経常経費補助金収入		159,996
寄付金収入		186
雑収入		7,001
借入金利息補助金収入		846
受取利息配当金収入		569
経常支出計		387,038
人件費支出		295,340
事務費支出		31,510
事業費支出		58,841
借入金利息支出		846
経理区分間繰入金支出		500
経常活動資金収支差額		29,820
施設整備等収入計		0
施設整備等支出計		249
施設整備等資金収支差額		249
財務収入計		0
財務支出計		24,990
財務活動資金収支差額		△ 24,990
当期資金収支差額合計		4,581
当期末支払資金残高		78,902

【光の家鍼灸マッサージホーム 資金収支計算書】

科 目		金 額
経常収入計		9,635
利用料収入		1,944
経常経費補助金収入		6,538
雑収入		1,141
受取利息配当金収入		9
経常支出計		7,728
人件費支出		5,632
事務費支出		1,831
事業費支出		265
経常活動資金収支差額		1,906
施設整備等収入計		0
施設整備等支出計		0
施設整備等資金収支差額		0
財務収入計		0
財務支出計		1,500
財務活動資金収支差額		△ 1,500
当期資金収支差額合計		406
当期末支払資金残高		4,471

法人事業

定款に定める施設事業体は次の四つであります。

① 障害者自立支援法による、指定・障害者支援施設 施設名 光の家新生園（生活介護定員五四名・機能訓練定員六名・施設入所支援定員五五名・短期入所定員二名）

② 障害者自立支援法による、指定・障害者支援施設 施設名 光の家栄光園（生活介護定員七〇名・就労継続支援B型定員一〇名・施設入所支援定員六〇名）

③ 生活保護法による救護施設 施設名 光の家神愛園（定員八〇名）

④ 障害者自立支援法による、盲人ホーム 施設名 光の家鍼灸マッサージホーム

更に、右四つの施設を統一的・総合的に結ぶ部門として総務部（総務課・医務課・食事課）があり、全施設事業体に亘る横断的組織体をもって活動する十数

余りの専門委員会（例・防災活動委員会・安全衛生委員会・苦情解決委員会等々）があります。

また、地域支援事業として視覚障害者ガイドヘルパーの養成事業を実施している福祉教育研修室の他に、地域福祉相談室、盲重複障害者福祉研究室、地域貢献活動室があり、地域福祉サービスの振興・発展に貢献することを目的としています。

以下各事業施設の活動状況等についてご報告いたします。

指定・障害者支援施設

光の家新生園

利用者の多くは、視覚障害に加え、他の障害を併せ持つ盲重複障害者である。その特徴を考慮した個別支援計画を策定し、能力に応じた支援を行った。平成二年度は、施設入所支援と生活介護の利用に加え、短期入所と機能訓練を利用して地域移行を実現したケースもあった。

一、利用者支援

平成二年度は、東京都立文京盲学校より一名、東京都立八王子盲学校より一名、群馬県立盲学校より一名、光の家栄光園より一名の四名の利用者を受け入れ、日中活動は五九名、施設入所支援は五六名でスタートした。今年度はじめて、視覚障害と知的障害と聴覚障害と肢体不自由の重複障害者を受け入れた。又、六月より機能訓練として同

法人内の光の家栄光園と光の家鍼灸マッサージホームの利用者を受け入れた。

二、地域との交流

地域の大学が主催する『ひののんフイクション「見えない森」』のプロジェクトや地域の小、中学校の総合学習に協力した。又、例年同様に地域との交流行事（旭が丘ふれあい夏祭り・チャリティーバザー・愛のサウンドフェスティバル）が行われ、地域の方々の参加やボランティアの協力が得られた。

三、職員研修の充実

今年度も自閉症・てんかんな

どの研修会に参加し、幅広い知識を得ることができた。又、専門知識におけるチーム研修を計画して職員の資質向上に努めた。

四、保護者との繋がり

五月には、給排水管の大規模修繕について説明し、八月と十一月では、利用者の支援状況等を報告した。又、年二回の施設便りに加え、日常的に健康状況等を報告した。

指定・障害者支援施設

光の家栄光園

就労支援を生活の中心として、働くことの尊さと喜びを知ると共に利用者の自立支援と社会活動への参加の促進を目標に支援してきた。昨年度は就労支援施設として、工賃倍増を目標に作業棟内の整理統合を行い、作業の効率化と環境整備を図った。利用者と職員が協力して目標に向かって努力した。

一、利用者支援

平成二年度は入所者六一

名、通所者一七名の七八名でスタートした。地域生活支援係を設置して二年目になるが、通所者の相談や調整を行うことで円滑に通所が継続できるための窓口として定着してきた。

一〇月に行われた職員の勤務時間の見直しによって夕方の体制を整備することで、よりきめの細かい利用者対応を目指した。

就労支援は収入が四千万円に達し、目標にしていた四千万円を上回ることができた。助成金で導入したカラー印刷機により、市内の大学や自治会等からの受注がいただけたこと等による。反面、点字出版は減少傾向が続いていて厳しい状況もある。

二、地域との交流

恒例の地域との交流行事や「シヨップアガペ」の営業等、さまざまな機会を通して地域の人々と自然なつながりを持つことができた。

三、職員研修の充実

二二年度は、視覚障害、精神

障害、治療食等についての内部研修を行った。また、一三の外部研修に職員を派遣して多くの刺激を受けた。

四、保護者との繋がり

五月、八月、一二月に保護者を会を開催した。また、年二回の施設便りの発行と、利用者一人ひとりの状況をミニ通信で各保護者にお知らせした。

救護施設

光の家神愛園

光の家神愛園では、生活の様々な面で介助を必要とする高齢の視覚障害者や、視覚障害に加えて知的障害や精神障害等を併せ持つ多重障害者、アルコール依存症や難病指定の持病のある者等、日常生活の様々な面できめ細かなサポートを必要とする者が約八〇名生活している。

どんなに重い障害があっても一人ひとりの人生が少しでも充実したものとなるよう、努めてきた。

一、利用者支援

平成二二年度は三名の利用者が天に召された。その内の二名は嘱託医や医務課の協力を得て、最後の最後まで入院する事なく、本人が永年慣れ親しんだ神愛園から直接、天国へと旅立たれた。又、夏には以前から生まれ故郷に戻ることを希望していた方が、実家近くの老人ホームに入所するために退所となった。

新たに神愛園に入所されたかたは男女各一名ずつで、いずれも精神科病院からの入所であった。

二、地域との交流

今年度も多くの地域の方々がボランティアとして、神愛園の活動を支えて下さり、感謝である。夏祭り、愛のサウンドフェスティバル、バザー等の行事を通して良い交流の時を持つことが出来た。

三、職員研修の充実

今年度も救護施設関係（全国救護施設協議会、関東地区救護施設協議会、東京救護部会）を中心に積極的に外部の研修会に職員を派遣する事が出来た。

四、保護者との繋がり

今年度も二回（八月、十二月）保護者を開催した。また、年末には写真入りのお便りを全保護者に送った。

盲人ホーム

光の家鍼灸 マッサージホーム

盲人ホームの目的は「あん摩マッサージ指圧師、鍼師、灸師の免許証を有する視覚障害者であって、自営または雇用されることの困難な者に利用させ、必要な技術等の指導を行い、その自立更生をはかる」となっている。平成二二年度は男性三名女性四名、六月と七月は男性四名となり施術業務に従事した。

また、一二月には鍼師が病氣後退職し、以来鍼師不在となっている。施術実績は三一五九件（前年三四三五件）で施術件数は減少した。施術者の資質向上のため、指導員講師に三療の技術及び接客全般に亘る心得について指導して頂いた。